

2021年度活動概要

授業学（中部）研究会

授業学研究会（中部）は認知心理学の側面から授業を考え、その成果を授業実践へ還元していくことを中心に活動しています。今年度は愛知工科大学工学部での授業観察、記録、分析を中心に行い、その経過報告を60周年記念国際大会のJACETタイムのSIG発表で「ジグソー法を利用したARコンテンツ開発授業：地域連携授業の事例研究」（2021年8月27日）で発表した。この発表は経過発表であったが、愛知工科大学の工学部学生と地元蒲郡市との連携授業の中に学習科学で有名な「ジグソー法」を取り入れ、さらにその中に地域の英語による紹介を学生が考えるという作業をどのように取り入れていったかを発表した。また第4回JAAL in JACET 学術交流集会のSIG連携発表「英語を取り入れた工学系授業デザイン：英語教育と認知科学／Engineering Classroom Design with English：English Education and Cognitive Science」（2021年12月3日）では本研究会が特色として授業研究と認知科学領域の「学習科学」との連携ということから、JAAL in JACETでの初めての試みの「SIG 連携発表」の枠で発表を行った。「学習科学」（Learning Sciences）は1990年以降発達した学習に関する認知科学の学際的領域だが、もともと1960年代以降の認知科学の知見、さらに発達心理学者のヴィゴツキーの社会文化的アプローチに淵源を持ち授業という他者交流の中で認知がどのように行われているかは授業研究にとってとても大切な分析アプローチであり、その連携について発表を行った。

活動としては本年度も対面での会をもつことを避けて、すべての会合をZoomで実施した。Zoomによる研究会は時間的に便利であるものの、やはり対面で実施し、より深く話し合いがもつことが必要であることも痛感した。ただ本年度は昨年度の尾関先生に続いて新しく吉枝恵先生に参加していただきさらに活動が活発となった。